エリック・ヴァン・ホーヴ

Eric van Hove
Japanese Constitution Worm Autodafé

Text: Shinya Watanabe

「日本国憲法 全身ブラックエ」(2005年)
風穴出版/ヒルメクエンターテイメント/zino出版/小原ふみ/ラ書店/ジュンク堂書店

文:渡辺真也

ベルギーのアーティスト、エリック・ヴァン・ホーヴは、ヒューマン・ライツ、戦争放棄、軍隊不保持、国際紛争を目的とした国際平和主義、などの日本国憲法の理念を、ボディペインティングを施した女性の全身に、「日自合憲」にはじまるような象徴性を孕った本作は、人間関係に伴う感情を表面化させる過程において現れる信頼感の構造を体現するものといえる。

観客は絵画加工されたテーブルの上に置かれた、1枚の紙に自らの恐怖の対象を書き、ろうそくの火で燃やす。同様のメッセージが、ペンで書かれたテーブルからは、作家からのメッセージが伝えられた。本の制作を手に取ることで、個人的な恐怖を、「自身の個人的な感情を整理する為にそれを書き出すという同様の行為でもある」と言える。「万作家、明仁天皇は、発する側と行為を行う側、両方の立場は、他人のメッセージを受け入れる側、と変化する。観客は、ペンを使用することで、自身の恐怖を、「自身の個人的な感情を整理する為に書き出す」という行為を通じて、自身の恐怖と、他人の恐怖を、「自我の心理的な変化」を、「自身の恐怖と、他人の恐怖との交換」により、自我の心理的な変化